
KELES Newsletter No.6

関西英語教育学会ニューズレター No.6



事務局：〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

関西大学 外国語教育研究機構 吉田信介研究室内 Tel：06(6368)0477

e-mail：keles@infoseek.jp URL：http://keles.hp.infoseek.co.jp/ 2006年12月16日発行

会長挨拶 研鑽の実を挙げましょう

師走も早くも半ばを過ぎ、心なしか慌しさを感じます。会員の皆様方がお元気にご活躍の日々を想っています。

去る7月22日(土)の臨時総会に於きまして、2期目を拝命いたしました幹事一同で立案・提示の諸案件を了承して頂きまして誠に有難うございました。もう一度、この場をお借りいたしまして、会員の皆様方にお礼申し上げます。

ご承認頂きました活動方針に従いまして、既に本学会の諸活動を企画・運営いたしております。既に本年のニューズレター第3号で予報を、第4号で確定情報を報告させて頂いておりますので、ご確認頂けませんでしょうか。

研究大会との兼ね合いで、紀要編集方針に一大変革がなされており、その方針に従って、ただ今、鋭意編纂作業中です。紀要編集委員長の報告でご確認下さい。第11回研究大会(5月下旬に開催予定)に多数の研究発表・実践研究・実践報告をして頂きまして、その発表が紀要に投稿され、掲載されることと期待いたしております。

セミナーの開催方式を改変しているのも、今回の新活動方針の表れです。ワークショップ方式により、英語教育関連事項を順次集中的に研修可能な方式を採用しております。今年度は既に3回のセミナーを盛会裏に終了しています。

特記すべきは修了証発行です。毎回のセミナーを大学の1コマの講義と同一の時間数で行い、研修時間数を記載して修了証を発行しております。

既にマスコミ報道されていますように、教員免許証を10年で更新することが文部科学省で検討されています。具体策は全く未定ながら、将来、大学等での研修修得単位数で更新が認可されることが予想されます。本学会では、その際に、公的に認可されている学会が発行している単位修得証明証として活用して頂けることを期待しております。

会員の先生方におかれましては、是非とも、このセミナーを研修計画に組み込んで、研鑽の実を挙げていただきますよう祈念いたしております。研修希望事項を事務局幹事までお申し出下さい。

教育関連報道が新聞紙上に掲載されない日は無いように思えます。教育界をめぐる報道には世間一般の関心が、殊の外、高いことの証左でしょうか。「教育の憲法」と呼ばれる「教育基本法」が施行されたのは、昭和22(1947)年3月でした。それ以降ほぼ60年の間、日本の教育のより所となっていた「教育基本法」が本年12月15日に参議院本会議で可決・成立の報道は、教育界では今年最大のニュース報道ではなかったでしょうか。

今年を一語で表現すれば「命」との報道と関連して、人の心に火を灯すのが教育の使命であることを思えば、改正教育基本法に従って、どのように教育活動を展開してゆくかは、私達教職に従事する者にとって非常に重い課題ではないでしょうか。英語教育研究との関連での今後の重要課題を背負っての越年です。良いお歳をお迎え下さい。

瀬川 俊一(京都府立大学名誉教授)

2006年度第2回KELESセミナー(神戸) の報告

10月14日(土)三宮研修センターにて、石川慎一郎氏(神戸大学)を講師にお迎えして、「言語教材の難易度分析手法の入門—コーパスを教室でどう使うか—」と題したセミナーが、募集定員を越える24名の参加者を得て開催されました。

使用する教材のzip資料の扱いから石川先生の軽やかな指示が飛び、すぐさま「どういうテキストが難しいか」、「どういう指標が難しさを表すか」という質問を参加者に投げかけられ、まさに活力のあるワークショップが開始されました。参加者からも即座に、テキストの難しさを表す数種の指標例を返されました。講師は、回答例の中から、コンピュータ処理を行なうリーダビリティの考え方に相応しいものは、語長、文長であることを示され、当セミナーで扱う言語教材の処理の視点を明解に示されました。

英文の難易度が定量化できれば、教育メリットとして、学習者のレベルに応じた教材選定・開発が行なえること、学習者のリーディング能力の向上の確認や試験問題の英文難易度レベルの統一などをあげ、社会的メリットとして、契約文書や公文書やHPの難易度調整ができるなどを指摘されました。特に、お国柄としての数値化信仰とも言えるほど、米国では、リーダビリティ指標は教育や社会に浸透し、教育における効率性への圧力や訴訟社会へのexcuseとして活用されていることも紹介されました。

英文難易度測定指標には、A) 基礎指標：FRES、B) 学年数算出指標：FKGL, FOG, SMOG、C) そのほかの指標：ARI, COLEMAN、D) グラフプロット型指標：FRY, RAYGOR、E) 日本人用指標IRI、さらに各種の指標(中條・長谷川、2004)のように多くの種類があることを示し、順次その特徴と変遷を解説されました。

これらの指標が共通して示す事柄は以下の

ようなことだそうです。1文の長さは統語的困難度を示し、その長さは語数で測る、1語の長さは、意味的困難度を示し、a)文字数とb)音節数で測る、全体の文数は物理的困難度を示し、センテンス数で測るが、大半の指標は上記の三つの値を組み合わせているということです。その中で、さまざまな計算式が用いられ、FRESを基調とした多くの改良型が提案されているということです。語長の2種類の測定法であるa)文字数とb)音節数では、音節数を使う計算方法の採用が多く、辞書照合により音節数を測るプログラムも以下のURLにあるということです。

<http://www.wordscount.info/hw/syllable.jsp>

しかし、多くは文字数からの近似で算出されている現状などから、講師は文字数による音節数の近似手法の検討をされました。JACET8000より、各レベル均等に、合計1040語を無作為に調査され、syllables/wordは、2.37、letter/wordは7.12という数値を出されました。音節数の推定によって、音節数が不明でも、「文字の数を3で割ると音節数が概算できる」つまり、1語あたりの音節数=1語あたりの文字/3であることを実際に既存の指標測定法で測ったデータの実証比較において検証されました。

以上を1時間で概説された後、試しにMSWordにて例文を打ち込み、FRESの計算を行ないました。まさに入門編からはじめ、残りの2時間で実際にエクセルを利用して参加者全員がしっかりと、計算できるところまで、入門から中級レベルへ、ジョークを飛ばしながら導かれるさまはウェブ中継でお伝えしたいところでした。

まず、素材の文数、語数、文字数を目で見ると数えるところから初め、その後、配布された資料のFRES公式を使って、エクセルに数式をはめ込み、さらに、Deleteボタンで練習問題解答を消す指示を出され、各自に再計算の指示を出されるところは、実に現場教員の指導手法までを教示される辣腕振りを示されまし

た。参加者は、FKGL、FOG、SMOGと実践を積み重ねました。講師は、順次、これらさまざまな計算手法の問題点を指摘され、日本の英語教育現場で直感的に利用できる日本人型の手法として講師ご自身のリーダビリティ計算法を紹介されました。そのねらいは、1) 音節数を使わない、2) 学年表記を年齢表記にするという2点で、FKGLに定数6を加算し、さらに定数7を足して日本人の年齢に変換する方法です。実際のデータで参加者が計算し、その妥当性が示されました。また、Amazonの扱う一部の書籍においては、FRESのみならず、難易度ランクを示すグラフと併記して示されている点を見ると、リーダビリティは、数値信仰のみの目的ではなく、著作物の相対的価値を表す指標として、重要な位置にあることを強調されました。

このように、講師の巧みな指導により、入門編から始まった当セミナーは、参加者が短時間で中級に達するというすばらしい成果をあげて終了いたしました。

倉本 充子(広島国際大学)

2006年度KELES第4回セミナー(奈良) のご案内

2006年度KELES第4回セミナーは、「Talking about English Education from Different Perspectives(〇〇だけじゃない英語教育)」をテーマに、2007年1月27日(土)天理大学にて開催されます。概要は以下の通りです。詳しくは、本学会HP上にて改めてご案内いたします。

- ◆ 日時：2007年1月27日(土)12:45～17:40
- ◆ 会場：天理大学柚之内キャンパス
2号棟22A教室

交通アクセスは以下のURLをご覧ください。

<http://www.tenri-u.ac.jp/ja/trans/index.html>

- ◆ 内容：実践報告2件、シンポジウム、講演
- ◆ 費用：無料
- ◆ 共催：天理大学、JALT Nara Chapter、奈良英語授業研究会

※詳細は同封の案内をご覧ください。

なお、2006年度KELES第5回セミナーは、2007年3月に和歌山にて開催予定です。

第10回卒論・修論研究発表セミナー開催案内および発表募集のお知らせ

学部生・大学院生の皆様には、卒論・修論の執筆でご多忙の毎日と存じます。KELESでは、その成果を発表していただく企画を毎年行っており、今年で10回目となります。そこで、日頃の研究の成果を、他大学の学部生・大学院生とともにセミナーに参加して、関西の英語教育界の第一線の先生方にコメントをいただければいかがでしょうか。他大学とのネットワークを作る絶好の機会でもありますので、奮ってご参加ください。

概要は以下の通りです。詳細は同封の書類をご覧ください。

- ◆ 日時：2007年2月10日(土)10:00～17:00
- ◆ 会場：関西大学千里山キャンパス
- ◆ 発表資格：学部生・大学院生(会員である必要はありません)
- ◆ 発表分野：外国語教育、言語教育、および関連分野
- ◆ 発表時間
卒業論文:30分(発表20分,質疑応答10分)
修士論文:40分(発表30分,質疑応答10分)
- ◆ 使用言語：日本語または英語
- ◆ 申込方法：所属、氏名、発表タイトル、発表要旨(日本語400字または英語200語程度)をメールで送信してください。
- ◆ 申込先：yabuuchi@kyoto-seika.ac.jp
- ◆ 申込期間：2007年1月10日(水)
～1月26日(金)

当日は、研究発表の他に講演を予定しております。後日、本学会HP上にて改めてご案内いたします。

- ◆ 共催：大学英語教育学会関西支部、外国語教育メディア学会関西支部

『英語教育研究(SELT)』第30号について

『英語教育研究(SELT)』30号には、14編の応募がありました。各論文とも3名の審査員によるブラインド評価が行われ、12編が採用候補となりました。現在、執筆者により、査読意見をふまえた修訂作業が行われています。

年度末までには、30号をお届けすることが出来る予定です。なお、29号の発行が遅れていますが、前編集委員会によって最後の編集作業が進められており、こちらも年度内にはお届けできる予定です。

次号31号からは、すでにお知らせしており、<当該年度(2007年度)のKELES大会もしくは、全国英語教育学会での研究発表原稿>を優先的に採用することになります。次号投稿を予定されている方は、まずもって大会研究発表にお申し込みおきくださいますよう、よろしくお願ひいたします。次号の原稿締め切りは2007年10月末の予定です。

紀要編集委員会
石川 慎一郎(神戸大学)

会費納入のお願い

年会費は以下の通りです。

1. 一般会員(関西のみ)5,000円
2. 一般会員(関西+全国)7,000円
3. 学生会員(関西のみ)3,000円
4. 学生会員(関西+全国)5,000円
5. 賛助会員 12,000円

未納の方には「納入のお願い」と振込票を同封させていただきました。

新規約により、年度末までに当該年度の会費納入が無い場合は、年度末時点で関西英語教育学会より自動退会となります。また、全国英語教育学会と同時入会されている方は、2月までに関西/全国の両方の会費を納入されない場合、来年度の全国英語教育学会での研究

発表申し込み資格が喪失します。早期の支払いをお願い申し上げます。

なお、会費納入に関するお問い合わせは、会計 岡 良和[oka@uhe.ac.jp]までお願いいたします。

新入会員紹介

(9月12日以降12月15日入金確認まで)

坂本 南美
羽藤 由美
篠原 みゆき
大熊 富季子
中元 千鶴
田中 貴子
指宿 和代

(敬称略、入会順)

紀要DVD販売のお知らせ

待望の紀要DVDが刊行
英語教育研究の全貌をPC画面に！

会員特別価格 3,000円

『英語教育研究』過去28年分、『卒論・修論研究発表セミナー発表論文集』過去9年分をすべて電子化。鮮明な画像で論文を通読できるほか、OCRによるテキスト情報を埋め込みましたので、論文内の単語などでの検索も可能になりました(ただし、OCRの認識率は100%ではなく、完全な検索はできません)。

KELESの歩みの記録として、また、英語教育研究の必携情報レポジトリとして、ぜひお手元におそろえください。なお、購入に関するお問い合わせは、会計岡 良和[oka@uhe.ac.jp]までお願いいたします。

以上